

令和 3 年 6 月 24 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03392

研究課題名(和文)1945年を跨境して---アジアにおける英米文学教育のジオポリティクス

研究課題名(英文)Geopolitics of American/English Literature Education in Asia across 1945

研究代表者

吉原 ゆかり (Yoshihara, Yukari)

筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号：70249621

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,500,000円

研究成果の概要(和文)：英米文学をアジアで研究することの意味を問う研究である。西洋化・近代化を目指したアジアでは、英米文学は、西洋に関する知識の源泉として、研究され教育された。西洋文化との出会いを通じて、アジアの文化的アイデンティティが認識されるようになった。1945年の日本の敗戦は、アジアにおける英米文学研究教育の意味を大きく転換させた。アジアにおけるアメリカの影響力が大きくなるに従い、英文学教育研究は、アメリカとアジアの関係を考える場となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

文学を学び研究することは、短期間での目に見える実益にはつながらないかもしれないが、人間性の理解や、歴史や文化の理解に役立つという考えに基づき、英米文学を20世紀の日本およびアジアで研究・教育することの意味を研究した。

学術的には、韓国、台湾、日本、フィリピン、アメリカなどの研究者と協働して研究を行い、日本における英米文学研究を、グローバルな視点から捉えることができた。社会的には、英文学を含んだ文学の教育・研究には、文学を読む楽しみに加え、文学を通じて時代や社会を理解する助けとなるという役割があることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：It is aimed at investigating the significance of studying/teaching literatures in English(es) in Asia.

Anglophone literature was studied and taught in Asia before 1945 as a resource to acquire knowledge about the West as embodiment of modernization. Asian cultural identities were constructed through conversation with the West. After Japan's defeat in 1945, the significance of studying/teaching literatures in English(es) underwent tremendous changes. Studying/teaching literatures in English(es) in Asia became a part of American Cold War hegemony.

研究分野：英米文学

キーワード：文学 植民地主義 冷戦 世界文学 国民文学 ジェンダー 文化外交 大衆文化

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は、科学研究費課題「日本および東アジア圏における英米文学の受容と変容(19・20世紀)」(科研C、2001-04年、研究代表：荒木正純)、「アジア(含オーストラリア)における英米文学の受容・変容(19世紀 20世紀)」(科研B、2005-08、研究代表：荒木正純(2005-07)、齋藤一(2008))、「帝国日本の英米文学高等教育 台北帝国大学、京城帝国大学、東京師範学校を中心に」(挑戦的萌芽研究、2012-15年、研究代表：吉原ゆかり)の継続拡大課題として構想された。

日本、および1945年以前に日本支配下に置かれ、その支配のもとで英米文学教育が行われてきたアジア地域で、1945年という時をはさんで、英語英米文学教育研究がどのように継承されたのか、あるいは1945年以降アメリカ覇権のもとでそれがどのように再編されていったのかを問うことが、当初の問題設定であった。英米文学受容教育研究という側面のほか、アジア文学者と英米文学の諸関係、アジアにおけるアメリカの文化政策研究、英米文学を媒介としたアジア地域の文化形成研究、文学と他メディア(映画、絵画、コミックス、演劇など)とのクロス・ジャンル研究の側面を有した研究を目標とした。アメリカ文学研究の越智・宮本、イギリス文学研究の齋藤・南・吉原、朝鮮研究の金・佐野・渡辺を構成員として、研究を開始した。

本研究参加者が関係した先行研究としては、Yoshihara, "Japan as 'half-civilized'" (2001)、齋藤・金・吉原著『<翻訳>の圏域』(2004)、齋藤『帝国日本の英文学』(2006)、Ochi, "What Did She Read?: The Cultural Occupation of Post-War Japan and Translated Girls' Literature" (2006)、Minami, Saito and Yoshihara, *English Studies in Asia* (2007)、金『「われわれ」のアイランド - 日本と植民地朝鮮におけるアイランド文学<移動>』(2008)、宮本陽一郎「大学と諜報」(2008)、Watanabe, "Japanophone Literature from Colonial Korea" (2011)、Minami, "Shakespeare as an Icon of the Enemy Culture in Wartime Japan" (2012)、佐野「植民地時代の文化と教育」(2013)が存在した。しかしながら、これらの研究は主に個人や単独国家地域に関わるもので、東アジア全体をひとつブロックとしてとらえ、そのブロック内の米英文学を媒介とした相互交流を考察するまでには至っておらず、また1945年を「跨境」した研究には達していないという認識が、本研究当初において存在した。研究代表者・分担者には、台湾、中国、フィリピンなどについての専門知識がないため、橋本恭子(『『華麗島文学志』とその時代』(2012))(研究協力者)、Judy Ick (フィリピン大学)の協力を仰ぐこととした。

2. 研究の目的

1945年の帝国日本からアメリカ合衆国の覇権の移行(時代)を「跨境」し、アジアの個々の国々・地域の境界線を「跨境」(地理)する視点をもって、アジアにおける英米文学の地政学(ジオポリティクス)を明らかにするために、以下の調査・研究を行うことを目的とした。

a. 帝国日本の時代、植民地・占領地域で行われていた英米文学教育 b. a.に関わったひとびとや機関の、1945年以降の動静 c. アジアにおけるアメリカの政治的・経済的覇権と、文化冷戦・文化外交の諸関係 d. c.と、グローバルなレベルでのアメリカの文化冷戦の関係 e. 当該課題に関心をもつ、国内外の研究者とのネットワーク拡大。

a eを相互に関連づけることにより、日本帝国時代、植民地で行われた英語英米文学教育・研究のうち、1945年以降のそれに引き継がれた側面と、消去された側面を、資料とその分析に

基づいて明らかにし、1945年と地理的境界線を「跨境」したグローバルな視点をもって、文学・文化生産物が文化冷戦で果たした役割を思考し、アジアの英米文学研究・教育が、現地のローカルな文化・文学の創生にどのような影響を与えたかを解析する。米英文学のグローバルなヘゲモニーを批判的に考察する英米文学制度研究であるのみならず、日本およびアジアがそれにどのように迎合あるいは対抗したかに焦点を当てることで、アジア研究に新しい知見をもたらすことを目指す。

3. 研究の方法

文学および関連した文化生産物（映画、絵画、コミックス、演劇など）の作品分析、国内・海外アーカイブ資料調査、研究資料・二次資料の調査研究。国内外の研究者を招いた国際研究集会を開催し、重要海外関連文献日本語訳を行い、情報を共有する。成果の、日本語・英語による論文集を公刊する。

4. 研究成果

越智・齋藤・宮本・吉原は、アーカイブでの一次文献調査、米英文学と映画などの大衆文化との相互交渉に関する二次文献調査を通して、1950年代アメリカにおけるアメリカ研究の確立が、アメリカの冷戦文化外交と緊密に結びついており、それが同時代のアジアにおける英米文学教育研究に強い影響を与えていることを明らかにした。南・吉原は、冷戦期に英米文学が盛んにコミックス化されたことと、アメリカの反共政策についての成果を共有した。金・佐野・渡辺・吉原は、日本植民地支配下の朝鮮半島で英米文学教育研究に携わったひとびとの、1945年以降における動向につき成果を共有した。

越智は、アメリカとアジアの米英文学教育研究分野における人的交流の研究を担当し、フルブライト資金、ガリオア資金、ロックフェラー財団関係資料調査を行った。CIAの資金援助を受けていたCongress for Cultural Freedomやアジア財団による、アメリカとアジアの文化交流促進と冷戦構造の関係について調査を進めた。1945年と地理的境界線を「跨境」する知識人女性たち、とくに坂西志保（1931年米議会図書館日本関係資料整理、戦後米日文化交流で活躍）に関する調査を行ない、本研究をジェンダー研究に接続した。

金は、朝鮮半島、台湾、中国、「内地」におけるアイルランド文芸受容の比較対照研究を行い、脱植民地運動やプロレタリア文化運動・農民文学との関連性を研究した。朝鮮半島の解放期(1945-1950)における左・右派の演劇人および演劇団体の活動を調査し、戦前の国民演劇期との連続と断絶に注目しながら考察した。立教大学英文科出身でアイルランド文芸に大きな影響を受けた柳致眞が、解放後、ロックフェラー財団の支援を受けて活動を行なったことの意義について調査した。

『帝国日本の英文学』で、帝国日本にとっての英文学の意義を研究した齋藤は、敗戦後、アメリカの覇権下におかれた日本における、英米文学の持つ意義について、調査研究を行なった。とくに、米軍による広島市と長崎市への原子爆弾投下に対する、日本の英米文学者（長崎大学・伊東勇太郎、広島市で入市被曝した大原三八雄）の応答に注目した。また、反共リベラルCongress for Cultural Freedomの機関紙の編集者・スティーヴン・スペンダーの、広島原爆に関する発言を、Congress for Cultural Freedomのグローバルな活動と関連させて考察を進めた。

佐野は従来のモダニズム研究で、西洋のハイ・カルチャー（文学、絵画など）が本流のものとされ、東アジアを含む他地域のローカルな大衆的モダニズムは副次的・派生的・模倣的と見られてきたモダニズム研究の西洋中心主義を見直すために、1930年代以降現在にいたるまでの、韓国・台湾・香港・日本の歌謡曲・大衆文学・映画などの大衆メディアを研究した。USIS（アメリカ合衆国情報局）の韓国における活動を調査し、韓国以外の国や地域におけるUSIS活動との比較検証を行なった。

南は、シェイクスピア・テクストを中心として英語文学の空間およびメディア間の移動がもたらす変容と受容、その背景にある力学を検討した。アメリカで若者の文学離れを阻止するために刊行された/Classics Illustrated/と、旧宗主国であるアメリカからの自立を謳いながらも協調関係にあったマルコス政権および戒厳令下のフィリピンでその模倣として刊行された/Famous Classics Illustrated/に注目。シェイクスピア作品が舞台から印刷物へ、イギリスからアメリカ経由でフィリピンへ、欧米の高級文化からフィリピンの土着・大衆文化へ移動するさまと、冷戦期のフィリピンのグローバル反共文化政策とマルコス政権下の文化・教育政策との連動を調査研究した。

宮本は、戦前から冷戦期にいたる、英米文学者・画家を含むアジア知識人とアメリカ文化政策との関係を研究した。シミュラクルとしてのアメリカン・スモールタウンの形成過程について、アイオワ州アイオワシティー（アメリカ高等教育におけるクリエイティブ・ライティング教育の中心地のひとつでもある）、およびウォルト・ディズニーが幼少期を過ごしたミズーリ州マーセリンについて資料収集を行うとともに、これと日本の作家・研究者の残したテクストとの関わりについて考察した。

吉原は、研究を総括し、シェイクスピア作品の北米とアジアにおける受容と大衆文化との相互交渉、アメリカ高等教育機関における創作文学教育、アジアにおけるアメリカ研究の成立、1945年以前に日本の植民地支配下におかれた国・地域において、日本からの解放以降の英語英米文学教育・英米演劇実践が、旧宗主国・日本の文化的覇権への対抗手段として機能しつつも、同時にアメリカ覇権下の反共親英米知識人育成のための文化冷戦の場でもあったために生じた亀裂や矛盾について調査・研究した。

渡辺は、韓国の英文学研究史に関する韓国語資料の調査研究を行い、西洋文学理論の植民地朝鮮半島・台湾における受容の比較対照研究を行った。1945年を跨る時期の台湾・朝鮮・日本における高級文化と大衆文化の相互交渉を調査し、戦前高等師範学校で英米文学教育を受け、解放後韓国にNew Criticismを導入、文壇・教育界で絶大な影響力を持つことになる白鐵について調査した。日本支配下の帝国大学で教育を受けた朝鮮半島出身者に関する『帝国大学の朝鮮人 大韓民国エリートの起源』を翻訳した。2018年8月国際研究集会「アメリカ問題、東アジア冷戦文化研究の現状と課題」（於・韓国成均館大学）を主導した。

本研究全体の成果は、時代、地理、メディアを「跨境」する英米文学文化政治研究を達成したことである。具体的には、a. 1945年という時代軸の分水嶺を挟んだ、アジアにおける英米文学研究の断絶と継続・反復 b. 「世界文学」としての英語文学と、ローカルな「国民文学」との不均衡な相互交渉 c. 高級文化と大衆文化の境界線 の精査である。

国際的研究ネットワーク構築と、世界各地でのアーカイブ調査を主要な目標とした本研究にとって、COV-19は深刻な痛手であった。2020年3月に、アメリカ、台湾、韓国、フィリピン他の研究者を東京に招いて、本研究の集大成として計画されていた研究集会や、2月～3月に予定されていた海外での調査活動は、すべてキャンセルされた。そのような障害にも

関わらず、本研究が築き上げてきた研究基盤と研究ネットワークは、さらなる研究の発展を
保証するものである。

越智・齋藤・吉原は、*Asian English: Histories, Texts, Institutions* (eds. Chilton, Clark, Yoshihara: Palgrave より 2021 年刊行決定)に、越智は“Seminar in the Ruins: The Salzburg Seminar and its Significance in Cold War Cultural Diplomacy in East Asia” 齋藤は“Stephen Spender and Japanese Atomic Bomb Poetry in the 1950s”、吉原は“Cultural Diplomacy, Literature(s) in English and Creative Writing in Cold War Asia”を寄稿した。

本研究構成メンバーに、日本、韓国、台湾関係の研究者を加えた日本語論文集が、2021 年
度に刊行予定である（仮目次: 渡辺「パール・バック『大地』と東アジア/ 佐野「東アジア
的モダニズムをめぐって」/金「デアドラ論は完成されていない」/ 橋本恭子（研究協力者）
「東西冷戦下の台湾における中国派比較文学」/ 越智「銃後の母から戦後の母へ」/齋藤
「一九五四年の「死の水曜日」」/南「戒厳令下の教育的コミックス(KOMIKS): 1970 年代フ
ィリピンにおける「新しい社会」と国語/文学」/ 吉原「アメリカの湖としての太平洋と文
学者交流」）。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Yukari Yoshihara	4. 巻 73(2)
2. 論文標題 Postwar American Studies in Asia and Its Pre-History: George Kerr and Taiwan as an American Frontier	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 American Quarterly	6. 最初と最後の頁 349-354
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiromi Ochi	4. 巻 -
2. 論文標題 Translations of American Cultural Politics into the Context of Post-War Japan.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Keio American Studies	6. 最初と最後の頁 154-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yukari Yoshihara	4. 巻 73
2. 論文標題 Postwar American Studies in Asia and Its Pre-History: George Kerr and Taiwan as an American Frontier	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 American Quarterly	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤 一	4. 巻 第36号
2. 論文標題 長崎原爆と伊東勇太郎	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『文学研究論集』	6. 最初と最後の頁 55-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiromi Ochi	4. 巻 -
2. 論文標題 The Reception of American Literature during the Occupation	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Oxford Research Encyclopedia of Literature	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/acrefore/9780190201098.013.163	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 南隆太	4. 巻 142
2. 論文標題 Between weeping Comedy and Laughing Comedy: Arthur Murphyから考える18世紀英国の 'true comedy'	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人文自然科学論集	6. 最初と最後の頁 55-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ryuta Minami	4. 巻 16(3)
2. 論文標題 "Hello Sha-kitty-pear: Shakespeares Cutified in Japanese Anime Imagination"	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal for Early Modern Cultural Studies	6. 最初と最後の頁 116-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yukari Yoshihara	4. 巻 14(1)
2. 論文標題 Toward 'Reciprocal Legitimation' between Shakespeare's Works and Manga.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Multicultural Shakespeare	6. 最初と最後の頁 107-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/mstap-2016-0019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 吉原ゆかり	4. 巻 70
2. 論文標題 1930年代-1950年代のジョージ・H・カーと環太平洋文化交渉の政治学	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 文藝・言語研究	6. 最初と最後の頁 41-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 越智博美	4. 巻 16
2. 論文標題 奇妙な果実	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 物語研究	6. 最初と最後の頁 238-248
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺直紀	4. 巻 48(1)
2. 論文標題 太平洋戦争期の日朝合作映画について 今井正 / 崔寅奎の『望楼の決死隊』(1943)『愛と誓ひ』(1945)を中心に	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『武蔵大学人文学会雑誌』	6. 最初と最後の頁 141-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡辺直紀	4. 巻 48(2)
2. 論文標題 李香蘭映画の植民地朝鮮・台湾における受容	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌	6. 最初と最後の頁 79-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計41件（うち招待講演 21件 / うち国際学会 34件）

1. 発表者名 Yukari Yoshihara
2. 発表標題 Cultural Diplomacy, Literature(s) in English and Creative Writing in Cold War Asia
3. 学会等名 MLA (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiromi Ochi
2. 発表標題 Anne in the context of post-war Japanese translation culture.
3. 学会等名 The L.M. Montgomery Institute 13th Biennial Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hajime Saito
2. 発表標題 Stephen Spender and Japanese Genbaku (Atomic) Poems in the 1950s
3. 学会等名 「1945年を跨境して---アジアにおける英米文学教育のジオポリティックス」 第3回研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiromi Ochi
2. 発表標題 Seminar in the Ruins: The Salzburg Seminar and its Significance in Cold War Cultural Diplomacy in East Asia
3. 学会等名 「1945年を跨境して---アジアにおける英米文学教育のジオポリティックス」 第3回研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yukari Yoshihara
2. 発表標題 Paul Stegner, Creative Writing at Stanford and Cultural Cold War
3. 学会等名 「1945年を跨境して---アジアにおける英米文学教育のジオポリティックス」 第3回研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yukari Yoshihara
2. 発表標題 Challenging Japanese Anne Cult in the 21st Century
3. 学会等名 The L.M. Montgomery Institute 13th Biennial Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉原ゆかり
2. 発表標題 冷戦期アジアにおける英米文学のジオポリティックス
3. 学会等名 アメリカ問題、東アジア冷戦文化研究の現状と課題(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 越智博美
2. 発表標題 冷戦期におけるアメリカ研究の伝播と生成
3. 学会等名 アメリカ問題、東アジア冷戦文化研究の現状と課題(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齋藤 一
2. 発表標題 過去と未来 ー 1950年代の原爆詩の詩学に関するスティーブン・スペンダーと大原三八雄の論争について
3. 学会等名 アメリカ問題、東アジア冷戦文化研究の現状と課題（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮本陽一郎
2. 発表標題 STEM教育時代の英語とアメリカ
3. 学会等名 大学教育学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金牡蘭
2. 発表標題 「英語青年」と恋 李孝石の『緑の塔』（1940）における失敗の諸相
3. 学会等名 第1回韓国・朝鮮学若手研究会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ryuta Minami
2. 発表標題 Do you need to read Shakespeare? Transmedia Proliferation of Shakespearean Bits and Pieces.
3. 学会等名 AME Talk Series: Shakespeare in Anime and Manga.（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yukari Yoshihara
2. 発表標題 Ophelia and the Dead Wet Girls in Japanese Horror Stories,
3. 学会等名 AME Talk Series: Shakespeare in Anime and Manga. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ryuta Minami
2. 発表標題 Between Entertainment and Enlightenment: Watching a 'Real' and 'Authentic' Shakespeare in Japan, from the 1860s to the 1920s.
3. 学会等名 The 3rd Biennial Conference of Asian Shakespeare Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡辺直紀
2. 発表標題 P・バック『大地』と東アジア：1930年代の言説空間とテキストの文化移植
3. 学会等名 延世大近代韓国学研究所国際学術大会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡辺直紀
2. 発表標題 李香蘭映画の朝鮮・台湾・上海
3. 学会等名 第6回東アジアと同時代日本語文学フォーラム (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hajime Saito
2. 発表標題 Stephen Spender and Japanese Genbaku (Atomic) Poems in 1950s
3. 学会等名 The Asian Conference of Arts and Humanities (ACAH) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐野正人
2. 発表標題 李箱の日本語詩、翻訳と創作のダイナミズム
3. 学会等名 李箱学会(韓国)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hiromi Ochi
2. 発表標題 Cultural Diplomacy and Cultural transformation: Cultural Programs in Post-war Japan
3. 学会等名 English Department, Iowa University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiromi Ochi
2. 発表標題 Seminar in the Ruins: The Salzburg Seminar and Its Significance in Cold War Cultural Diplomacy
3. 学会等名 The Asian Conference of Arts and Humanities (ACAH) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yukari Yoshihara
2. 発表標題 George H. Kerr and American Studies in Cold War Japan
3. 学会等名 The Asian Conference of Arts and Humanities (ACAH) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐野正人
2. 発表標題 李箱の日本語詩、翻訳と創作のダイナミズム
3. 学会等名 李箱学会(韓国)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 金牡蘭
2. 発表標題 解放期の朝鮮演劇における演劇的伝統の再構築
3. 学会等名 朝鮮学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ryuta Minami
2. 発表標題 What 's in a name? : Shakespeare and the Japanese Pop Culture
3. 学会等名 The 3rd International Shakespeare Forum in Tokyo, 2017: Popular Shakespeares on Page, Stage, TV and Screen (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yukari Yoshihara
2. 発表標題 Shakespeare in the Cold War
3. 学会等名 The 3rd International Shakespeare Forum in Tokyo, 2017: Popular Shakespeares on Page, Stage, TV and Screen (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉原ゆかり
2. 発表標題 スタンフォード大学のcreative writingコースのWallace Stegnerと冷戦下アメリカ文化外交政策
3. 学会等名 「1945年を跨境して」第二回研究集会(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yukari Yoshihara
2. 発表標題 オフィーリアの変容
3. 学会等名 Stanford University, IUC (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Naoki Watanabe
2. 発表標題 The Transculturation of Pearl S. Buck's The Good Earth in the 1930's East Asia
3. 学会等名 2017 ACADEMIA KOREANA INTERNATIONAL CONFERENCE (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ryuta Minami
2. 発表標題 Graphic Shakespeare Workshop: Re-creating Shakespeare as Manga Comics
3. 学会等名 The Second Biennial Conference of the Asian Shakespeare Association (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yukari Yoshihara
2. 発表標題 What if Ophelia could Swim?
3. 学会等名 The Second Biennial Conference of the Asian Shakespeare Association (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉原ゆかり
2. 発表標題 1930年代-1950年代のジョージ・H・カーと環太平洋文化交渉の政治学
3. 学会等名 科学研究費課題「1945年を跨境して」研究集会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 宮本陽一郎
2. 発表標題 1946年のクロノトープ『我等の生涯の最良の年』と『素晴らしき哉、人生!』
3. 学会等名 筑波アメリカ文学会(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 渡辺直紀
2. 発表標題 植民地朝鮮の日本語文学 雑誌『新時代』所収の李光洙の文章を中心に
3. 学会等名 第4回世界文学・語圏横断ネットワーク研究集会(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Naoki Watanabe
2. 発表標題 The Colonial Reception of Ri Koran's Films in Korea and Taiwan
3. 学会等名 Transnational Humanities in Korean Studies, ANU Korea Institute & ANU College of Asia and the Pacific(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Naoki Watanabe
2. 発表標題 Harbin Representation in Man'ei Film: on Ri Koran's Watashi no Uguisu (My Nightingale, 1944)
3. 学会等名 Third Annual UCLA Trans-Pacific Workshop: The Politics of Life and Death(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 渡辺直紀
2. 発表標題 『北の詩人』再読－林和と朝鮮文学
3. 学会等名 国際日本文化研究センター共同研究会「戦後日本文化再考」第9回(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Naoki Watanabe
2. 発表標題 The Comparison of 'Postwar' between Japan and Korea in late 20th century: on the Aspects of Redress
3. 学会等名 The Many Worlds of Yamaguchi Yoshiko: An International Workshop at Columbia University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Naoki Watanabe
2. 発表標題 The Colonial Reception of Ri Koran's Films in Korea and Taiwan
3. 学会等名 Comparative Postwars: Japan, Germany, and Elsewhere, Columbia University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Naoki Watanabe
2. 発表標題 The Transculturation of Pearl Buck's The Good Earth in 1930's East Asia
3. 学会等名 AAS (Association for Asian Studies) 68th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 越智博美
2. 発表標題 文化の占領とアメリカ文学研究
3. 学会等名 アメリカ文学会九州支部第62回大会特別講演 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hiromi Ochi
2. 発表標題 Reintroduction of American Literature and Cultural Re-orientation of Japan.
3. 学会等名 MLA (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計17件

1. 著者名 Ryuta Minami	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 470
3. 書名 The Routledge Handbook of Shakespeare and Global Appropriation	

1. 著者名 Yukari Yoshihara	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Manchester University Press	5. 総ページ数 283
3. 書名 Shakespeare and the Supernatural	

1. 著者名 Yukari Yoshihara	4. 発行年 2020年
2. 出版社 INSEA Publications	5. 総ページ数 230
3. 書名 Manga!: Visual Pop-Culture in ARTS Education	

1. 著者名 Yukari Yoshihara	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 264
3. 書名 Asian Interventions in Global Shakespeare	

1. 著者名 Hiromi Ochi	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 400
3. 書名 Routledge Companion to Transnational American Studies	

1. 著者名 越智博美	4. 発行年 2018年
2. 出版社 音羽書房鶴見書店	5. 総ページ数 246
3. 書名 『憑依する英語圏文学』	

1. 著者名 宮本陽一郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 265
3. 書名 アメリカの芸術と文化	

1. 著者名 Ryuta Minami	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 271
3. 書名 Local and Global Myths in Shakespearean Performance	

1. 著者名 Yukari Yoshihara	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 397
3. 書名 Women's Manga in Asia and Beyond	

1. 著者名 齋藤一	4. 発行年 2017年
2. 出版社 青弓社	5. 総ページ数 388
3. 書名 原爆 を読む文化事典	

1. 著者名 Yukari Yoshihara	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Edizioni Scientifiche Italiane	5. 総ページ数 150
3. 書名 Shakespeare and Global Tourism. Place Memory Participation	

1. 著者名 Yukari Yoshihara	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Cambridge University Press	5. 総ページ数 550
3. 書名 A History of Japanese Theatre.	

1. 著者名 吉原ゆかり	4. 発行年 2016年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 502
3. 書名 異文化理解とパフォーマンス	

1. 著者名 宮本陽一郎	4. 発行年 2016年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 380
3. 書名 アトミック・メロドラマ 冷戦アメリカのドラマトゥルギー	

1. 著者名 渡辺直紀	4. 発行年 2016年
2. 出版社 ソミョン出版(韓国・ソウル)	5. 総ページ数 278
3. 書名 林和文学研究・5	

1. 著者名 渡辺直紀	4. 発行年 2016年
2. 出版社 東国大学校(韓国)博士論文	5. 総ページ数 295
3. 書名 林和文学論研究	

1. 著者名 金杜蘭	4. 発行年 2016年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 502
3. 書名 異文化理解とパフォーマンス	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	齋藤 一 (Saito Hajime) (20302341)	筑波大学・人文社会系・准教授 (12102)	
研究分担者	宮本 陽一郎 (Yoichiro Miyamoto) (30143340)	放送大学・教養学部・教授 (32508)	
研究分担者	南 隆太 (Minami Ryuta) (60247575)	東京経済大学・コミュニケーション学部・教授 (32649)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	渡辺 直紀 (Watanabe Naoki) (80409367)	武蔵大学・人文学部・教授 (32677)	
研究分担者	佐野 正人 (Sano Masato) (90248724)	東北大学・国際文化研究科・准教授 (11301)	
研究分担者	越智 博美 (Ochi Hiromi) (90251727)	専修大学・国際コミュニケーション学部・教授 (32634)	
研究分担者	金 牡蘭 (Kim Moran) (90732941)	早稲田大学・グローバルエデュケーションセンター・准教授 (任期付) (32689)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	橋本 恭子 (Hashimoto Kyoko)		
研究協力者	イック ジュディ (Ick Judy)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計5件

国際研究集会 「アメリカ問題、東アジア冷戦文化研究の現状と課題」(於・韓国成均館大学)	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Modernism and Beyond: Art, Literature, and Aesthetics	開催年 2019年～2019年

国際研究集会 「1945年を跨境して---アジアにおける英米文学教育のジオポリティックス」 (第二回研究集会)	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 「1945年を跨境して---アジアにおける英米文学教育のジオポリティックス」 (第三回研究集会)	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 1945年を跨境して---アジアにおける英米文学教育のジオポリティックス	開催年 2016年～2016年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
韓国	成均館大学	高麗大学	ソウル国立大学	
フィリピン	フィリピン大学	アテネオ大学		
米国	スタンフォード大学	アイオワ大学	ハワイ大学	
台湾	国立台湾大学	国立政治大学	中央研究院	他2機関
カナダ	マギル大学	プリンス・エドワード島大学		
中華人民共和国	香港大学			